OUKA
The University of Osaka
Institutional Knowledge Archive

Title	『おしまコロニー』 を訪ねて
Author(s)	江部, 高廣
Citation	大阪公衆衛生. 1991, 59, p. 14-15
Version Type	VoR
URL	https://hdl.handle.net/11094/83631
rights	
Note	

The University of Osaka Institutional Knowledge Archive : OUKA

https://ir.library.osaka-u.ac.jp/

The University of Osaka

寄　稿

『おしまコロニー』を訪ねて

大阪府保健福祉医療監　江　部　高　廣

『おしまコロニー』の目的

ふとしたことから、この春、3月下旬に函館市の近郊に点在する施設『おしまコロニー』の一部を訪ねる機会にめぐまれた。

コロニーという言葉には、どうしても「地域とかけ離れた閉鎖的な施設」の印象がある。しかし今回、短時間ではあったが『おしまコロニー』の一部を目のあたりにして、私は少なからずショックを受けてしまった。しかし、発足の経過をみれば、その地域に根ざした活動もうなづくことができる。

昭和28年から10余年の保育所の運営のなかで、園児の中にいた知恵遅れの子供たちの処遇を考えて、社会福祉法人として、諸施設の創設につながって行ったのである。以下に施設概要書の前文を引用しておきたい。

『おしまコロニーは、障害児者の療育を一貫する障害教育の流れの中でとらえ、実践しています。即ち、これらの人々が、個々の生涯において、その時々の発達の状態や能力の程度に最もふさわしい場所は処遇を選び取れるように、多種多様の施設群を備え、それぞれの機能を続けてきました。

とくに当初から地域社会とのつながりを重視し、一つには社会的自立を志し試みる若者たちを積極的に育て上げ、彼らの広範囲な就労と生活の指導援助に取り組んでいます。また一つには、地域の早期療育プロジェクトチームを組み、関係機関とも連携をとりつつ、在宅する障害児者の療育援助を行っています。さらに幼稚園と3か所の保育園では、児童部門の施設と協力して統合保育を通した障害児の早期療育を進めています。』

『おしまコロニー』の事業

主な事業は次のようになっている。

地域療育部門

母子訓練・生活能力訓練・地域療育センター

児童療育部門

つくしんぼ学級・おしま学園・第2おしま学園

教育部門

ゆうあい養護学級

成人育成部門

新生園・明星園・ゆうあい荘・星が丘寮・函館青年寮・函館青年寮通所部

就労援護部門

はまなす寮・ななえ荘・ともえ荘・おしま荘・明和荘・ききょう荘・みはら荘・おしま第1～3共同作業所

医療部門

ゆうあい会診療所・ゆうあい会石川診療所

私はまず成人育成部門の函館青年寮を見学した後、就労援護部門の運営するグループホームの一つを訪ねた。それは函館市内の分譲住宅地にある一戸建て住宅である。ここでは、すでに独立生活をしている知恵遅れの娘さんの母親が、自宅をグループホームとして提供し、4人の女性の世話をしている。

次に訪ねた生活寮（別の分譲住宅街の一角にある）は、開業医の住宅をコロニーが購入したもので、８人の寮生が入っていた。寮生は２～３年で自立生活をすることを希望し、アパート住まいへと独立して行く。

地域社会の中の『おしまコロニー』

生活寮、グループホーム、アパートのいずれの場合も、近隣の人達に対して、コロニー側から事前に挨拶をしたり、了解を得たりすることは一切しなかった。障害者も一人の市民であり、どこに住むかは自由だという考えで、施設がノーマライゼーションの実践をしているのである。

現在では地域社会の理解もすすみ、近隣とのトラブルはないばかりか、アパート経営者の方から入居者の斡旋をコロニーへ依頼してくる。コロニーが保証人となっているので家賃の滞納がない、周囲とのトラブルがない部屋をきれいに使ってくれる、など一般の人より歓迎されているという。

またコロニーは親の会の委託を受けて、小規模作業所を３ケ所運営している。その一つ「仕出し弁当・おしま屋」は、国道をはさんだお向かいの「ほかほか弁当」と競い合っていた。ここでは４人の職員と20人の女性（うち４人は結婚している）が働いている。私も昼食にこの「おしま屋」の弁当をいただいたのだが、コロニーが自慢するだけあって、出来栄えはすばらしかった。「おしま屋」は４月１日から「おしまコロニー福祉向上」へと大きく成長し、新たな出発をすることになっている。

また、印刷とウニ箱の組み立てをしている小規模作業所も、平成２年度に国が制度化した「分場方式」を導入し、新年度から通所授産施設の分場として体制が整備されるという。

『おしまコロニー』をあとにして

「施設入所→通勤寮・生活寮」や「グループホーム→アパート」の流れを当然の方向として、職員が生き生きと取り組んでいるように思えた。私たちを案内してくれた指導員も、この処遇方針を念頭において、今どこに問題があるか、到達度はどうか、と絶えず考えていて、それを説明してくれる時の目は輝いていた。

最後に、コロニー次長の話してくれたことを紹介して結びとしよう。

『入所者を地域にかえすことを目標に働き、努力をしていないと、職員は目標を見失い、仕事の他に生きがいを求めるようになるでしょう。寝かせきり老人と同じことで、長期の入所は、軽度を中度にし、中度を重度にしてしまうのです。』

★ 医療と文化 ★

英・米・独・仏の４国の平均寿命はほぼ同じだ。しかし医療の実態は、国ごとに非常に異なる。たとえば

- 人口あたりの心臓バイパス手術は、アメリカではイギリスの６倍。
- 低血圧症の人は、アメリカでは保険料金をまけてもらえる。ところがドイツでは、れっきとした病人と見なされ、治療の対象になる。
- 子宮摘出は、フランスでは稀な手術だ。しかしアメリカでは、それは２番目に頻度の高い手術である。

“Medicine and Culture”（Penguin Books）より